

CWへの懐古とこれから

JJ1SXB 池 恵美子

アマチュア無線で何なのかさえわからず、電話級(4アマ)の資格を得て4年位経った頃、240グループの設立に同席することができ、幸いにも無線との関わりを細々ながら持続できたと思っています。

以後、電信級(3アマ)から2アマ、1アマへと続くことになるのですが、結果的にそうなったというだけで、初めから1アマを目指したわけではありません、その都度何等かの思いや理屈付けがあつての事でした、例えば、電信級は、その頃居候していた妹二人に、無線の資格をとる事を薦めたのがきっかけですし、2アマは、QSOするにはスピードがなければ・・・と、また、その頃は240グループのCW講習会有り、講師役の傍で聞いたり、QSOするうち、SXAに「試してみたら」と乗せられ受験してみようだったし、QSOも度重なり、2度3度お相手いただいていると、英会話が出来ず会話が続き、ローマ字QSOではもどかしさを覚え、英会話を覚えるより、和文を覚えた方が早いと考え、覚えた結果が1アマ受験になったというだけです。

そんな訳で和文の勉強は、軽い気持ちで始めましたので、楽をして覚えたいという気持ちが先で、SXAが毎日5文字をめどに教えてくれるのですが、翌日に復習すると3文字忘れ、それでも新たに5文字の追加練習をするのですが、今日は頭の休養日とか、疲れたとか言って、飽きてしまったことの原因をつけ、さぼることが多くて思う様には進みませんでした、ただ続けられたのは、押し付けられなかった事と、気分むらの多い私に根気良く付き合ってくれた事で、楽しいコミュニケーションにもなった事かもしれません。

後でお聞きしたのですが、私とは正反対に、ご主人の厳しい指導に泣きながら、時には思いやりのケーキに釣られ、短期間でマスターした友人もいらっしゃるようですが、目的意識の差が取得期間の差ともなりました。

それでも毎日繰り返しテープを聞き、QSOできる程度になると面白く、チャージの支度の時間も惜しんで、毎夜、欧文や和文QSOに花を咲かせ、OM諸氏の水晶を磨いたとか、古いリグのお話、新局に対しての苦言やら、

技術的なお話で理解に苦しんだりしながらも、QSOする事が何よりの楽しみになり、多くの知人、友人を持つ事ができました。

また、SXAの仕事帰りのモービルとの和文QSOはリスナーが現れるほど、恒例行事？にもなりました、その頃は6mでは怖い物知らずでCQ. CQの連発で常連さんからお声がけ戴くと、和文に変わり欧文での其れまでのスピードから、スピードアップしてのQSOで、逆だね？等と言われ気分を良くしていました。

今色々なことが懐かしく思い返されます、東京コンテスト6mCW部門も初参加で2位入賞しましたし、ハムフェアのブースで和文の聞き取りテストで100字もクリアしましたし、40歳を過ぎて始めたCWですが、和文に関しては、SXAと肩を並べることが出来ました、ただ欧文に関しては何故か叶いません、叶わないところを残さないと、先生？に申し訳無いと負け惜しみを言っています。

CQ誌にも、その頃記者をなさっていたJFIUMK富永氏(後に編集長)が学生の頃、SXAのCW、特に和文友達だった事が縁で親しくさせて戴き、1アマ挑戦記を載せて戴いたり、私にとっては楽しく充実した良き一時期でした。

折角覚えたCW、期間が空いたとは言え、忘れていない事が幸いで、これから訪れて来る多くの時間を、勉強を兼ねて、CW・QSOを復活したいと思います、時代も無線界も変わり、その他の趣味も多様となり、これから先どれだけ充実したハムライフを送る事ができるかわかりませんが、振り返った時、懐かしく思い起こせる事柄を沢山残せる様、各局を参考にしながら永く続けて行きたいと思っています。

第 49 号(平成 11 年 3 月発行)掲載